

実施要領 様式11(第13条関係)
【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成20年7月2日

【評価実施概要】

事業所番号	270800311
法人名	バンドーウエルフェアグループ株式会社
事業所名	グループホームバンドー下北
所在地	むつ市新町32-15 (電話) 0175-23-9626
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年1月30日

【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年2月20日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤 3人, 非常勤 18人, 常勤換算 5.3人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	理美容代実費ほか 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4)利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	27 名	男性 3 名	女性 24 名
要介護1	6 名	要介護2	9 名
要介護3	9 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	2 名
年齢	平均 80.6 歳	最低 57 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人芳龍会、上條歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「家庭的な、その人らしく」を理念のポイントに掲げており、カンファレンス等で全職員に周知し、常に理念を念頭に置いたケアを提供するよう努めている。

もともと縫製工場であった建物を改装しているが、共用空間に家具を置いたり、壁に季節感のある装飾品を飾る等の工夫を行い、家庭的な雰囲気を作っている。また、廊下の幅やトイレの広さ等も全体的にゆったりとしており、利用者が過ごしやすい環境となっている。

利用者一人ひとりの好き嫌いに配慮した献立を作成したり、個々の得意分野を活かした役割を促すなど、利用者が生き生きと暮らせるような支援が行われている。また、受診時の送迎を行ったり、法人所有の大型バスを利用してバス旅行に出かけるなど、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。

看護師の資格を持った職員を配置し、医療面でのケアを強化したり、法人内の専門家から献立に関する助言をもらえる仕組みを整えている。また、感染症に関するマニュアルを整備し、発生時に対応できるよう勉強会を行う等、利用者の健康管理に努めている。

【特に改善が求められる点】

地域密着型サービスの意義等について話し合い、現在の理念に地域との関わりについて盛り込むことに期待したい。また、近隣の「老人憩いの家」などの公共施設に積極的に出かける等、地域に根ざしたホームづくりに取り組むことにも期待したい。

職員は自己・外部評価の意義を理解しているが、日々の仕事を見つめ直すためにも全職員で自己評価を作成してはどうか。

これまでの研修傾向や職員の希望等を把握し、全職員が平均的に研修を受講できるよう、内部・外部研修の年間計画を策定することに期待したい。研修計画には、地域福祉権利擁護事業等の利用者の暮らしに関わる制度などを盛り込んでほしい。また、法人内外の同業者との交流を図る機会を持ち、お互いのケアサービスの向上に向けた意見交換等を行っていくことに期待したい。

運営推進会議を活用する等、利用者の無断外出や緊急災害時に備え、地域からの協力体制を整備していくことに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果を全職員に周知し、改善策等について話し合いを行っており、課題であった利用者の健康診断を定期的実施する等、より良いケアサービスの提供に向けた取り組みを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>カンファレンス等を通じて自己・外部評価の意義などを全職員に周知している。職員は理解しているが、自己評価は各ユニットの管理者のみが作成している。今後は、自分の仕事を見つめなおす機会として、全職員で実施することに期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域の民生委員や家族からなる運営推進会議を設置しており、2ヶ月に1度開催している。会議では行事予定や自己・外部評価の結果、改善策等を報告し、委員から意見を出してもらえるよう働きかけを行っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>ホーム便りや面会時等を利用して暮らしぶりなどを定期的に家族に報告している。また、目の付くところにホーム内外の苦情受付窓口を掲示したり、面会時には家族に声がけをするなど、気軽に意見等を出してもらえうような雰囲気作りに取り組んでいる。家族から出された要望などは今後のケアサービスに反映させる仕組みとなっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会の行事に数回参加したり、実習やボランティア等の受け入れ体制を整えている。今後は、より地域との関わりを深めるために、近隣の公共施設に積極的に出かける等の取り組みに期待したい。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>理念を玄関や職員休憩室等に掲示したり、共有を図るための話し合いを行っており、常に理念を念頭に置いたケアを提供するよう努めている。</p> <p>職員は、虐待は重大な事故であると認識している。また、虐待を未然に防ぐよう管理者が職員の日々のケアに目配りしており、虐待のないケアを提供するよう努めている。虐待を発見した場合の対応マニュアルが整備されており、全職員への周知も図られている。</p> <p>利用者への影響に配慮し、やむを得ない場合以外は職員の配置換えを行っていない。新しい職員を配置する際は利用者に説明するとともに、職員間での申し送りを行っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>相談受付時に利用者や家族の意向を引き出すよう、時間をかけて話し合いを行っている。また、ホーム内の雰囲気を感じてもらうために見学等を実施し、戸惑うことなく、意向に沿ったサービスを利用できるよう支援している。</p> <p>職員は、利用者とのコミュニケーションが大切であると認識しており、日々利用者の視点に立って一緒に見たり聞いたりし、一人ひとりの気持ちを理解するよう努めている。また、食事の支度などの利用者が得意なことは手伝ってもらおう等、利用者や職員が助けあいながら生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画作成時は、ケアカンファレンス時に全職員で話し合いを行ったり、利用者や家族の意向を把握しており、個別具体的な計画となっている。</p> <p>利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援するほか、協力医療機関を確保し、いつでも気軽に相談できる体制を整えている。受診結果は、その都度速やかに家族に報告している。また、重度化や終末期のケアに対応しており、指針を基に利用者や家族に説明し、入居時から意思統一を図っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者個々の好き嫌いに配慮して食事を作っている。また、野菜の皮むきを手伝ってもらったり、職員も同じテーブルで会話を楽しみながら食事を摂る等、和やかな雰囲気となるよう配慮している。</p> <p>敷地内の草取りや散歩等、利用者の希望を聞きながら外出支援を行っている。また、その日の心身の状態や天候などに留意し、ドライブに出かける等の取り組みも行われている。</p> <p>職員は身体拘束の内容等を理解しており、拘束のないケアを実践している。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合は理由等を記録したり、家族の同意を得る仕組みとなっている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解している。ホーム独自の理念を掲げているが、地域におけるホームの役割等を反映するまでには至っていない。	○	地域密着型サービスの意義等について全職員で話し合い、地域との関わりを現在の理念に盛り込むことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のケアカンファレンスで理念を確認したり、玄関や職員室などの目に付く場所に理念を掲示し、職員間での共有化を図っている。また、管理者や職員は理念を常に念頭に置き、日々のケアサービスを提供するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会の行事に数回参加したり、実習やボランティア等の受け入れ体制を整えているが、地域との関わりを深めるための積極的な働きかけは行われていない。	○	運営推進会議の委員との連携を深めたり、近隣にある「老人憩いの家」などの公共施設に積極的に出かける等、地域との関わりを持ち、交流を深めていくことに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	カンファレンス等を通じて自己評価及び外部評価の意義などを全職員に周知しており、職員は概ね理解している。外部評価の結果は全職員に周知し、改善策等について話し合いを行っているが、自己評価は管理者のみで作成している。	○	自己評価は、日々の自分の仕事を見つめ直すために、全職員で実施することに期待したい。
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員や家族等からなる運営推進会議を2ヶ月に1度開催しており、行事の予定や自己・外部評価の結果、改善策等を報告し、委員から意見を出してもらえよう働きかけている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自己・外部評価の結果を提出している。行政担当者が運営推進会議のメンバーとなっているが、なかなか参加が得られず、また、ホーム便りやパンフレット等の配布も行っておらず、行政との連携を十分に図るまでには至っていない。	○	行政にパンフレットや広報誌を配布して定期的にホームの取り組み等を周知するとともに、運営推進会議への出席を継続的に促すなど、行政との関係を深める取り組みに期待したい。
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の概要を理解しているが、職員が外部研修に参加したり、内部研修を実施する等の取り組みが行われておらず。全職員が制度の概要を理解するまでには至っていない。	○	今後、地域福祉権利擁護事業等の制度を利用することが考えられるので、全職員を交代で外部研修に派遣したり、内部研修のテーマとして定期的に取り上げる等の取り組みを行い、全職員が制度の概要を理解することに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待は重大な事故であると認識している。また、管理者は虐待を未然に防ぐよう、職員の日々のケアに目配りしている。虐待を発見した場合の対応マニュアルを作成しており、発見した場合はマニュアルに従って対応するよう全職員に周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書や重要事項説明書を基に理念やケアの方針等を利用者や家族に丁寧に説明し、疑問等があれば対応している。また、契約改訂時や退居時にも利用者や家族に理由等を説明し、納得してもらっている。退居時には必要に応じて退居先等の支援も行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真を多く取り入れたホームだよりを定期的に発行しており、暮らしぶりや健康状態等を家族に報告している。また、金銭管理状況は出納帳に記録しており、月1回、領収書のコピーを添付して報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には声がけする等、家族が意見や要望等を話しやすい雰囲気作りを行っている。また、重要事項説明書や各ユニットにホーム内外の苦情受付窓口を明示しており、家族から意見等が出された時は今後のケアサービスに反映させる仕組みとなっている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響に配慮し、やむを得ない場合以外は配置換えを行っていない。新規職員を採用する際には利用者に説明するとともに、職員間の申し送りを行い、利用者が自然と馴染めるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のカンファレンス時に困難事例の検討を行ったり、新しいケア技術の資料を全職員に配布する等の取り組みを行っている。外部研修受講後は報告書を作成し、カンファレンス時に全職員に周知する等の取り組みを行っているが、年間の研修計画を作成しておらず、全職員が平均的に研修を受講できる体制にはなっていない。	○	これまでの研修傾向や職員の希望等を把握した上で、内部・外部研修の年間計画を策定し、職員が新しい技術や知識を習得できるような環境を整備してはどうか。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、法人内の他ホームとの合同会議に参加しているが、職員レベルで勉強会等を行うまでには至っていない。	○	法人内の他ホームと定期的に勉強会を行うなどの交流や連携を図る機会を確保し、職員同士がお互いのケアサービス向上に向けた意見交換等を行っていくことに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談受付時から利用者や家族の意向を引き出せるよう時間をかけて話し合いを行うほか、ホームを見学してもらって雰囲気味わってもらう等、戸惑うことなくサービスを開始できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者とのコミュニケーションが大切であると認識しており、日々利用者の視点に立って一緒に見たり聞いたりし、一人ひとりの気持ちを理解するよう努めている。また、食事の支度などの利用者が得意なことは手伝ってもらおう等、利用者職員が助けあいながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者との関わりや職員間での話し合い、面会時の家族からの情報を基に、一人ひとりの意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時は、担当者のみではなく、全職員でケアカンファレンス時に話し合いを行ったり、利用者や家族から日々の暮らしに関する要望を聞いており、個別具体的な内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、定期的に見直しを行っている。また、日々の観察や記録、家族面会時や利用者との会話から状態や意向等を把握するよう努めており、変化があった時は随時の見直しを行っている。見直しを行う時は再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人所有の大型バスを利用してバス旅行に出かけるなど、利用者等の要望に合わせて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、協力医療機関を確保したり、看護師の資格を持った職員を配置する等、いつでも相談でき、対応してもらえる体制を整えている。受診結果は詳細に記録し、定期的、あるいはその都度家族に報告している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りのケアに関する指針を整備しており、入居時から利用者や家族に説明し、意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定することなく、「さん」づけで呼んだり、介助時は羞恥心に配慮した声かけを行うなどの対応を心がけている。また、職員は個人情報保護法について理解しており、個人記録は利用者や訪問者の目に付かない場所に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、個々のペースや訴えを大切にした対応を行っている。また、利用者のその日の希望や身体状況等にも目を配っており、その時々にあった柔軟な対応を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好き嫌いに配慮して食事を作っている。また、茶碗拭きや配膳、野菜の皮むきなど、一人ひとりの力量に応じて準備や後片付けを手伝ってもらったり、職員も利用者と同じテーブルに座って会話しながら食事を摂る等、楽しい雰囲気作りを行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の体調等を確認しながら、一人ひとりの希望に合わせた入浴を支援している。また、入浴を拒否する利用者に対しては、これまでの生活歴を理解した上で、時間をおいて声がけする等、無理強いすることなく入浴を促している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや日々の関わり、家族からの情報収集を基に一人ひとりの生活歴や得意なこと、希望等を把握している。また、個々の現在の状況も把握した上で、食事の準備や草取り等の役割や楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内の草取りや散歩など、利用者の希望にそった外出支援が行われている。また、ホームに閉じこもりっぱなしにならないようドライブに出かける等の取り組みも行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容等についてはケアカンファレンスを通じて全職員が理解しており、拘束のないケアを実践している。また、やむを得ず拘束を行う場合は理由等を記録したり、書面で家族の同意を得る仕組みとなっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は施錠していないが、ホームが道路に面しており、危険防止のため、家族の同意を得た上で玄関に鍵をかけている。外出傾向を察知した時は職員が付き添う等の支援を行っているが、無断外出時に近隣からの協力が得られるような働きかけは行われていない。	○	無断外出があった場合に近隣からの協力が得られるよう、運営推進会議を活用するなど、住民との協力体制の整備に積極的に取り組んではどうか。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網を整備し、年2回日中と夜間を想定した避難訓練を利用者と一緒に実施している。災害時に消防署等からの協力が得られるような働きかけは行っているが、食料等の備蓄品を用意するまでには至っていない。	○	災害発生時に備え、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意しておくことに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の専門家から献立に関するアドバイスや情報提供を受けており、栄養バランス等に配慮された献立となっている。また、食事や水分の摂取量を把握しており、必要に応じて記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防等に関するマニュアルが作成されており、必要に応じて見直しを行うほか、カンファレンス時に勉強会を開催し、感染症発生時に適切に対応できる体制を作っている。また、感染症に関する情報を随時収集したり、家族に情報を提供する等の取り組みも行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には家具等が設置されているほか、壁には利用者と一緒に製作した季節の飾りつけが施されている。また、テレビ等の音量や照明の強さなども適切であり、快適な空間となっている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
35	80	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでもらうよう家族等に働きかけを行うほか、行事の写真や利用者の作品を飾るなど、一人ひとりにとって居心地の良い居室となるよう支援している。		

※ は、重点項目。